

2018.9.28 <計1枚>

京都大学記者クラブ加盟各社 各位

立命館大学広報課

運動の生活カルチャー化により活力ある未来をつくる
アクティブ・フォー・オール拠点
文部科学省「情報ひろば」で取り組みを紹介

立命館大学は、2018年9月28日(金)～2018年12月24日(月)の期間、文部科学省「情報ひろば」企画展示室にて「運動の生活カルチャー化により活力ある未来をつくるアクティブ・フォー・オール拠点」(※)をテーマとした展示を行います。

本拠点は、「運動」を媒介に「スポーツ・運動」と「医療」の両側面から健康を維持・増進させ、全ての人々をアクティブな状態へ導き、「日本の誇るべき絆社会」を実現することを目的として2015年に設立しました。文部科学省と科学技術振興機構が事業化を支援する長期大型プロジェクトであるセンター・オブ・イノベーション事業(以下、COI)の採択を受け、空間価値を変える新たなスポーツ健康技術(スマートウェア技術・空間シェアリング技術・運動誘導継続)と、寝たきりゼロを目指す「ロコモの見える化と予防法の開発」を行っています。

今回の展示では、動画やパネルによる拠点の紹介とともに、スマートウェアのプロトタイプおよび空間シェアリングの基盤となる超指向性スピーカーをご紹介いたします。

記

展示期間:2018年9月28日(金)～2018年12月24日(月)

展示場所:文部科学省「情報ひろば」企画展示室

(東京都千代田区霞が関3-2-2 旧文部省庁舎)

主な展示物:

- ・シーズタペストリー(COIに関する本学の取り組みをまとめたもの)
- ・成果物展示(スマートウェア、指向性スピーカー など)

以上

※「運動の生活カルチャー化により活力ある未来をつくるアクティブ・フォー・オール」拠点

文部科学省が10年後の社会を見据えて設定した3つのテーマ「少子高齢化先進国としての持続性確保」「豊かな生活環境の構築(繁栄し尊敬される国へ)」「活気ある持続可能な社会の構築」に対するチャレンジング・ハイリスクな研究開発に対して、最長9年間で10億～50億円程度の支援を行うプロジェクトです。本学は2015年2月に西日本の私立大学として初めて本採択されています。

研究リーダー:伊坂忠夫 立命館大学スポーツ健康科学部 学部長・教授

プロジェクトリーダー:田中孝英 オムロンヘルスケア株式会社 執行役員常務 技術開発統轄部長(兼)商品・開発・生産SCM担当

●取材・内容についてのお問い合わせ先
立命館大学広報課 担当:池田
TEL. 075-813-8300
<http://www.ritsumei.ac.jp/>

既存の枠を超えて未来をつくり出すこと
それが立命館のアイデンティティ

Beyond Borders